

複数月平均 80 時間を超える教職員
0 人を目標して

働き方改革 通信

For everyone's Smile

第 10 号
令和 4 年 1 月
山形県教育庁

新しい年を迎えました。寅年は、芽を出したものが成長していく年という言い伝えがあります。働き方改革の芽も、大きく成長していく年になるよう、今年も、学校と地域、そして教育委員会が共に力を合わせて取り組んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

さて、令和 3 年 12 月に上期の集計結果を山形県ホームページに掲載しました。皆さんの学校の状況と比較するとどんな状況か、確かめてみましょう。

私たちの学校の 12 月の
月平均在校等時間
() 時間

同じ校種における上期
平均値
() 時間

差は、プラスですか？
マイナスですか？
() 時間

さて、ご自身の状況と比較すると、どんな状況ですか？

私の 12 月の
月平均在校等時間
() 時間

私たちの学校の 12 月の月
平均在校等時間
() 時間

差は、プラスですか？
マイナスですか？
() 時間

私の 12 月の
月平均在校等時間
() 時間

同じ校種における
R3 上期月平均値
() 時間

差は、プラスですか？
マイナスですか？
() 時間

あなたご自身が、今よりも月平均在校等時間を減らすためにできることはどんなことですか？

裏面に続きます。

例えば「帰宅をいつもより 10 分早くする。」ように実行した時、削減できる時間は 1 か月で約 3 時間（1 日 10 分×21 日）になりますが、10 分早く帰るために、どのような手立てをとるかを考えることが必要です。

（例）

→物を探す時間をなくすよう机上を整理する。

→休日の部活動終了後は他の仕事をしないで、生徒の下校の様子を見守って共に帰宅する。

他に、どんな手立てがありそうでしょうか。是非近くの先生方と話し合ってみてください。

○事例報告（令和3年度分）

《県立天童高等学校》

・1 か月の時間外勤務が 80 時間を超えた職員は、在校等時間を減らそうと思っている。しかし、「複数月平均 80 時間」を超えないための、今月、来月、再来月などの、「先を見据えた働き方」には気づいていなかった。

そこで、面談を通して「前月は○時間でしたので、今月は▲時間を目指しましょう。今月▲時間なら、来月は■時間ですね」と予め、目標時間（業務に費やすことのできる時間）を確認した。

月 80 時間を超える状況は、児童・生徒等に係る通常予見することができない業務量の大幅な増加により、一時的・突発的に所定の勤務時間外に業務を行わざるを得ない状況と捉えています。

これまでも、各学校の工夫により業務を削減していただいておりますが、学校に在籍している職員で、半分以上の職員が月 80 時間以上になっていたり、月 80 時間を超える状況が 1 年のうちで 6 か月以上ある職員がいれば、今一度、「業務の削減」について検討いただきたいと思います。

最後に、複数月平均で 80 時間を超えないような働き方をするためには、事例にあるように、教職員一人一人が先を見通した働き方ができるよう、校長先生からお声がけいただくことが大変効果的です。

出勤簿に関する押印廃止に伴う追加のお知らせ

署名（フルネーム、名字のみ、下の名前のみ）	可
記名	可 Excel によりデータ上での管理含む
出勤という記載	不可
○、✓（チェック）	不可

東桜学館高等学校より、押印廃止にともなって出勤簿をエクセルで管理できるシートを作成いただきました。是非使用してみたい県立学校がありましたら、教職員課：働き方改革推進室（023）630-3406 までご連絡ください。